

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について（美祢市）

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。

## 1 調査の概要

### （1）目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### （2）調査期日 令和3年5月27日（木）

### （3）調査を実施した校数・児童生徒数

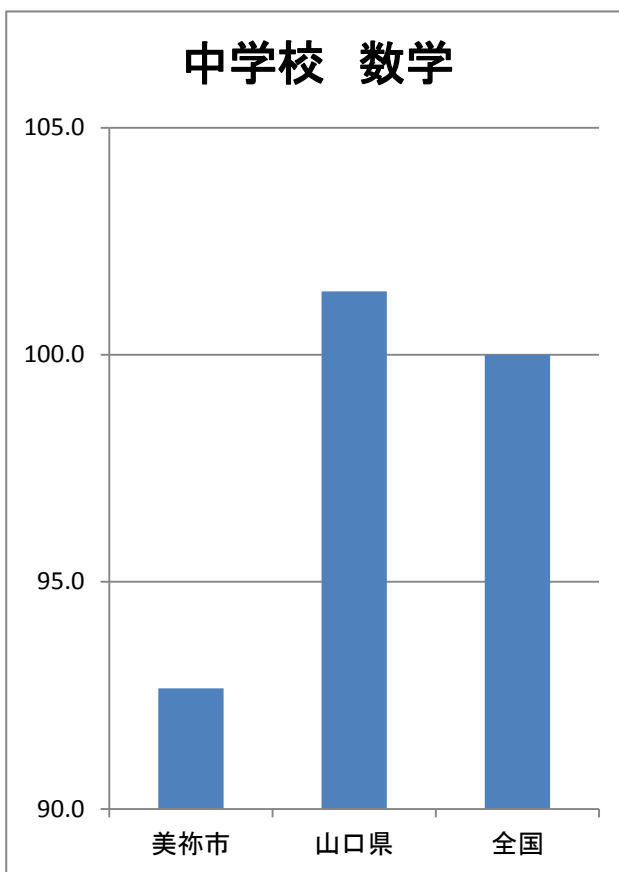
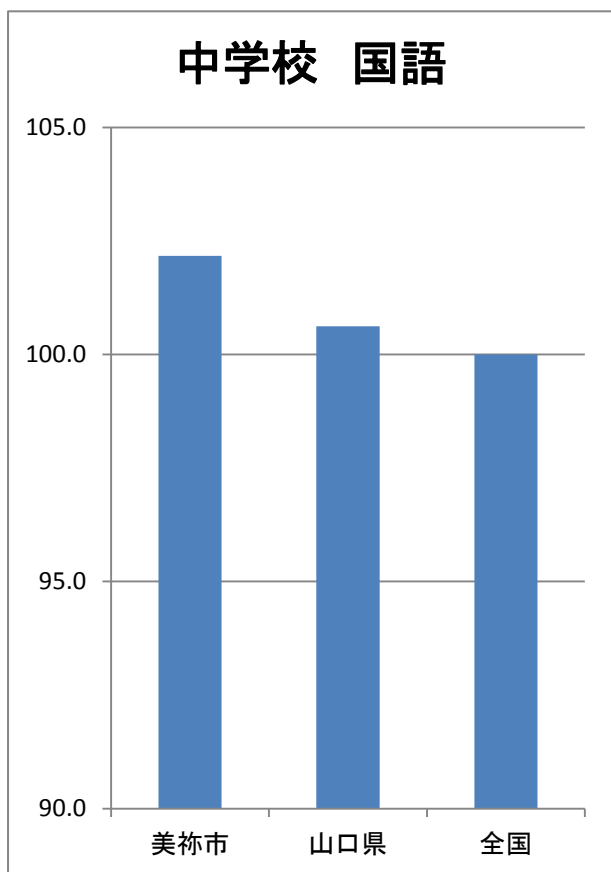
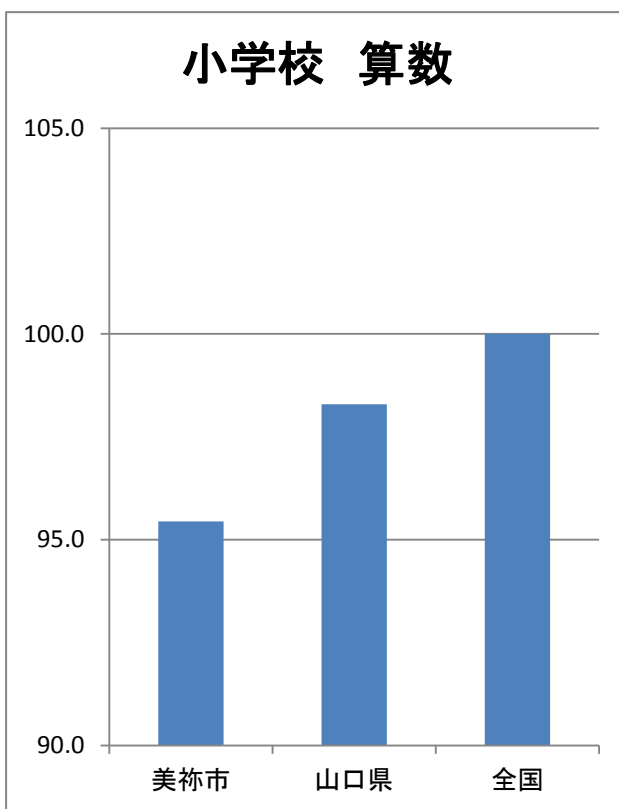
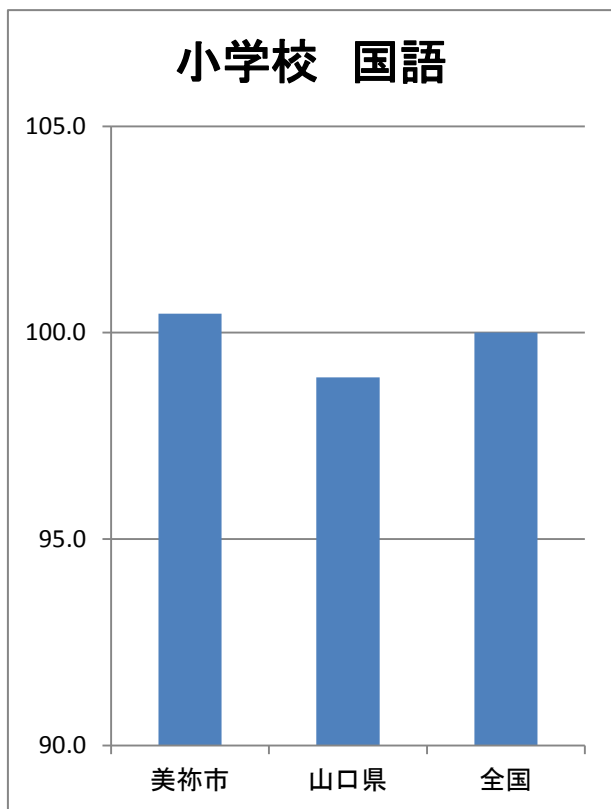
学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	11校	児童数 159人
中学校第3学年	6校	生徒数 157人

## 2 美祢市の結果

### （1）教科に関する結果

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
美祢市	65	67	66	53
山口県	64	69	65	58
全国	64.7	70.2	64.6	57.2

下のグラフは、令和3年度における全国平均正答率を100としたときの美祢市と県平均の割合を示したものである。



【教科の出題の具体より (( ) は県平均との差)】

小学校  
国語

- ◎ 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する (+10%)
- △ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する (-10%)
- △ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える (-9%)

小学校  
算数

- ◎ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる (+4%)
- △ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる (-8%)
- △ 小数を用いた倍についての説明 (20m を1としたときの0.1にあたる長さ)を解釈し、ほかの数値の場合 (30m) に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる (-5%)

中学校  
国語

- ◎ 事象や行為などを表す多様な語句について理解する (+7%)
- △ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する (-4%)
- △ 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く (-2%)

中学校  
数学

- ◎ 関数の意味を理解している (+7%)
- △ 整式の加法と減法の計算ができる (-15%)
- △ 規則的に並んだ数の和のきまりを文字を使って説明することができる (-17%)
- △ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる (-4% ただし無回答率が 45.9%)

◎ 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する (+10%)

3  
丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことになりました。次は、丸山さんが書いた「文章の下書き」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

一人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の教室にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にうつみ置かれていきます。かたづけたり時間が増えてかたづけられなかったりすることが、エげんいんなのだと思います。オその他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあります。それでも、きちんとかたづけられれば、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができます。それでも、きちんとかたづけられれば、きちんとかたづけることが大切ならば、そうじたん当の人などがかたづけられればよいという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

遊具だけではありません。そうじの道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができます。学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためにも、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

二 丸山さんは、部「そうじたん当の人などがかたづけられればよい」と考える人を説得するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の部をくわしく書き直そうとしています。あどの条件に合わせて書きましよう。

【西田さんの話】（遊具置き場のそうじ担当）

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることもあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。



- （条件）
- 「そうじたん当の人などがかたづけられればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書こう。
  - 「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
  - 六十字以上、百字以内で書くこと。

△ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える (-9%)

○ 自分の考えを明確に伝えるためには、筋道の通った文章であることが大切です。自分が主張したいことは何か、それを支える理由や事例は何かを明確にし、その上で理由や事例等を文章の中でどのように配置すればよいかを考えることができれば、自分の考えが相手に伝わりやすくなります。

そのために、まず一人ひとりに自分の考えをもたせ、意見文等を書き、友達や先生、地域の人等に伝える活動を行っています。また、このような活動の中で、自分の書いた文章を読み直し、修飾と被修飾の関係や主語や述語の関係について確認する等の時間を設定します。

誰に、何を、何のためにという相手や目的の意識をもたせた上で、自分の考えを伝える学習を繰り返すことを行うことで、思考力、判断力、表現力を伸ばしています。

次のオの文について、部「すぐ」はどの言葉にくわしくしていますか。適切なものを、あどの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

オ その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

- 1 遊び終わったら
- 2 遊具を
- 3 かたづける
- 4 むずかしい

学校では

△ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する (-10%)

2

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ『資料』です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

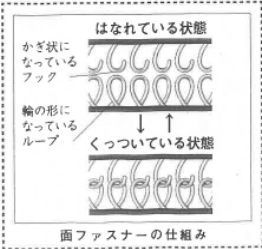
【資料】

面ファスナー

面ファスナーは、かざやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができる。とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていて、気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかざ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に広がりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、

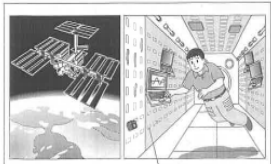


短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰かが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることもできる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてお好みの調節することができるよさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようにもなっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

相川さんが読んだ『資料』の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明としても適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

学校では

- 文章の内容の中心となる事柄を把握するためには、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかや、どのような感想や意見をもっているか等に注目して、事実と感想、意見等との関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることが重要です。
- そのために、読み取ったことを友達に説明する等学習活動の目的を明確にし、必要感をもたせた上で、文章を読む活動を取り入れるようにします。

家庭では

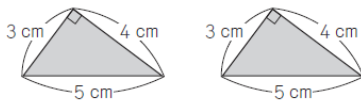
- 本を読んだり、ニュースを見たりした時に、「どんな内容だった?」「どう思う?」とたずねることで、内容を自分の言葉で表現させてください。「内容の中心となる事柄」を把握したり、説明したりする力が育まれます。

## 小学校 算数

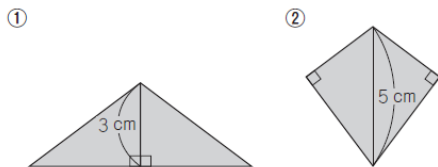
◎ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる (+4%)

### 学校では

(2) 図1の直角三角形が2つあります。



上の2つの直角三角形を使い、同じ長さの辺どうしを合わせると、下の①や②の図形をつくることができます。



上の①と②の図形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

- 図形の学習では、低学年の頃から三角形や四角形の色板を使って形づくりをする等、具体物を使って、ものの大きさに関わる活動を行っています。このような数学的な活動の積み重ねにより、点、辺、角といった図形の構成に着目して観察する力を養っています。そのことにより、図形の向きを変えても面積は変わらない等、図形の面積の基本的な性質について理解することができています。

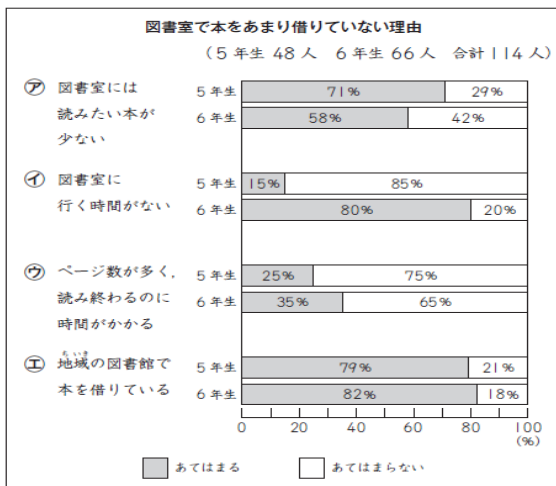
△ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる (-8%)

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書室で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書室で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがあがるのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



(5) ひよりさんたちは、アンケート調査の結果について、話し合っています。



図書室には読みたい本が少ないと思っている人や、地域の図書館で本を借りている人が多いことがわかりました。



図書室でもっと本を借りてもらうために、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、学校の図書室に置いてもらうことにしてはどうでしょうか。

そこで、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることにしました。

5年生と6年生から、どのようなデータを集めるとよいですか。

下の1から5までの中から、ふさわしいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 学校の図書室をよく利用している曜日
- 2 学校の図書室に置いてほしい本の題名
- 3 学校の図書室をよく利用している時間帯
- 4 地域の図書館をよく利用している曜日
- 5 地域の図書館で最近借りた本の題名

## 学校では

- 身の回りの事柄について、統計的に問題解決をするために集めるべきデータは何かを判断することに課題があります。子供が日常生活の中で感じた疑問や気になったことについてデータを集め、それらを分析することによって、疑問に対する結論をまとめたり、さらなる問題を見いだしたりするといった判断ができるような学習を充実させていきます。

△ 小数を用いた倍についての説明（20 m を1としたときの0.1にあたる長さ）を解釈し、ほかの数値の場合（30 m）に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる（-5%）

(3) 14 mのテープと20 mのテープがあります。

こはるさんたちは、14 mは20 mの何倍かについて考えています。



こはる

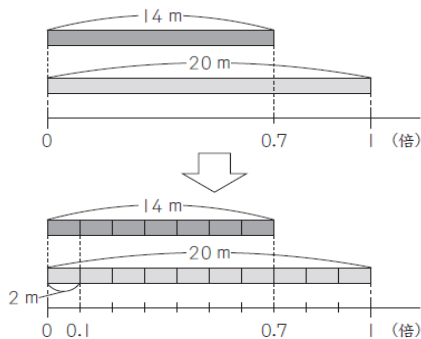
$14 \div 20 = 0.7$ で、0.7倍です。0.7倍というのは、20 mを1としたとき、14 mが0.7にあたることを表していましたね。



れんと

20 mを1としたとき、14 mが本当に0.7にあたるのかな。

れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 mを1としたときに14 mが0.7にあたるわけについて、20 mを10等分した1つ分の長さが0.1にあたることをもとにして考え、下のように図をかいて説明しました。



【ゆうまさんの説明】



ゆうま

20 mを1としたとき、0.1にあたる長さは2 mです。14 mは、2 mの7つ分になるので、20 mを1としたときの0.7にあたります。

## 家庭では

- 「食べ物を四等分に切り分ける」「折り紙を半分に折る」等、日常生活の中に「基にするもののいくつ分か」といった考え方がありません。家庭での様々な体験が、学校での算数の学びに活かされます。

12 mのテープと30 mのテープもあります。

たくみさんたちは、12 mは30 mの何倍かについて考えています。



たくみ

$12 \div 30 = 0.4$ で、0.4倍です。

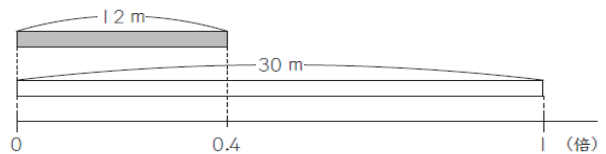


さくら

30 mを1としたとき、12 mが本当に0.4にあたるのかな。

30 mを1としたときに12 mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



## 学校では

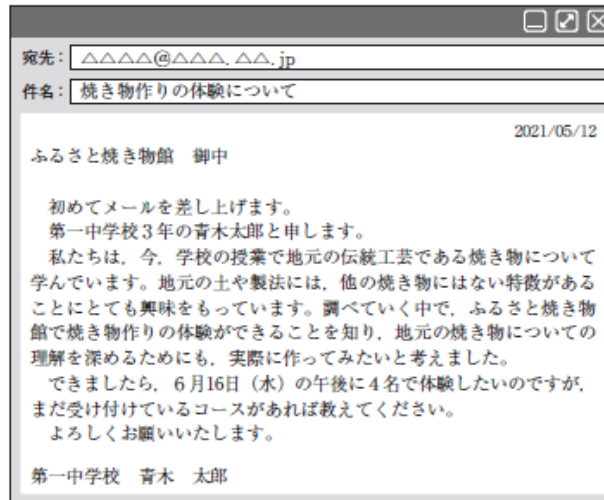
- 小数を用いた場合の「1を基にしたときにいくつに当たるか」という倍の意味について理解することに課題が見られます。倍の学習は2年生から始まります。図などを用いることで、基にする大きさを意識できるようにする等、絵やテープ図、線分図等発達段階に応じた活動を取り入れた学習の一層の充実を図ります。



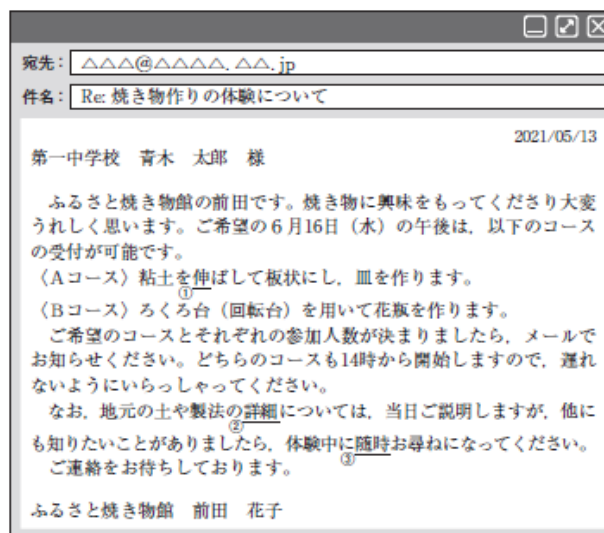
◎ 事象や行為などを表す多様な語句について理解する (+7%)

- 1 別のとき
- 2 次第に
- 3 少しの間
- 4 そのとき

二 ―― 線部③「**随時**」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。



青木さんが送信した「二回目のメール」



「担当者からの返信メール」

4

総合的な学習の時間で、地元の伝統工芸である「焼き物」について調べている青木さんのグループは、「ふるさと焼き物館」で焼き物作りの体験をしたいと考え、担当者とのメールのやりとりをしています。次は、青木さんが送信した「二回目のメール」、「担当者からの返信メール」、青木さんが送信する「三回目のメールの下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

学校では

- 多様な語句は、生活の中の様々な場面や状況に応じて実際に使うことで身に付いていきます。また、辞書等を活用して似た意味をもつ表現について調べる等の学習活動を行うことも、語句の理解を深めるには効果的です。今後も話や文章の中の語句について関心をもてるような学習の工夫を行っていきます。





△ 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く (-2%)

・ 持ち物と服装について  
・ 写真撮影の許可について

〈確認事項〉

四 青木さんは、「二回目のメールの下書き」の  の部分に、事前に確かめておきたいこととして、次の〈確認事項〉について書こうとしています。あなたなどのように書きますか。書き出しの「なお」に続けて、相手に失礼のないように書きますか。  
なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」

宛先: △△△△@△△△.△△.jp  
件名: Re: Re: 焼き物作りの体験について

2021/05/14

ふるさと焼き物館 前田 花子 様

第一中学校の青木です。ご返信くださりありがとうございます。  
希望のコースと人数ですが、Aコース2名、Bコース2名でお願いいたします。当日は開始時刻の10分前に行く予定です。

なお、

第一中学校 青木 太郎

学校では

○ 相手や目的に応じて、分かりやすく伝えることや敬語を適切に用いて書くことに課題が見られます。

相手や目的を具体的に設定して手紙やメール文を書く等の学習を繰り返し行うことで、相手や目的、表現しようとする内容等に最もふさわしい言葉を選んで文書を書く力を育てて行きます。

家庭では

○ 相手や場に応じ、敬語等を用いた正しい言葉遣いで相手に分かりやすく伝えることは、社会生活を送る上で必ず必要なスキルです。子供が尊敬語、謙譲語、丁寧語をどのように用いればよいのかを自ら判断し、適切に使うことができるよう、家庭でも声掛けをお願いします。

◎ 関数の意味を理解している (+7%)

- 4 長さが1 mの棒を地面に対して垂直に立てたときにできる影の長さについて、ある日の午前8時から1時間おきに、午後4時まで調べました。



次の表は、午前8時から経過した時間とそれに対応する影の長さを表しています。

午前8時から経過した時間と影の長さ

経過した時間(時間)	0	1	2	3	4	5	6	7	8
影の長さ(cm)	190	124	96	80	79	96	130	193	350

このとき、午前8時から経過した時間と影の長さについて、「経過した時間を決めると、それにもなって影の長さがただ1つ決まる」という関係があります。

下線部を、次のように表すとき、 と  に当てはまる言葉を書きなさい。

は  の関数である。

学校では

- 具体的な事柄の中から2つの数量(今回は経過した時間と影の長さの関係)を取り出して、それらの変化等を調べ、数量の関係についての的確に捉える力が問われています。理科や総合的な学習の時間等、他教科の学びの中でも、数量について考察する際には、身の回りにある事象を関数関係としてとらえることが有効なことがあります。伴って変わる2つの一方の値を決めれば他方の値がただ一つ決まるという関数についての理解を深めることができるよう、授業だけでなく学校生活の様々な活動場面で、必要に応じて指導していきます。

△ 整式の加法と減法の計算ができる (-15%)

1  $(5x + 6y) - (3x - 2y)$  を計算しなさい。

△ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる (-17%)

6 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7のとき  $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$   
 9, 10, 14, 15のとき  $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$   
 22, 23, 27, 28のとき  $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話し合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数を5をたすと左下の数になっているよ。」  
 真菜さん「そうなるのは、自然数を5つずつで区切っているからだね。」  
 優太さん「左上の数を  $n$  とすると、左下の数は  $n+5$  と表すことができるね。」  
 真菜さん「右上の数と右下の数も  $n$  を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

$n$  を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を  $n$  とすると、右上の数は  $n+1$ 、左下の数は  $n+5$ 、右下の数は  $n+6$  と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n + 1) + (n + 5) + (n + 6)$$

=

### 学校では

- 文字式の計算が確実にできるようにするために、授業の中で計算の法則を確認したり、自分の計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れた授業を行います。

さらに、A I型学習支援教材等も活用して、学校でも、家庭の自主学習でも、練習問題に繰り返し取り組みます。A I型学習支援教材では、本人のつまずきに応じた解説が示されたり、苦手とする問題が繰り返し出題されたりするので、個人の理解に合わせた学習を自分のペースで進めることができ、効率的に学ぶことができます。

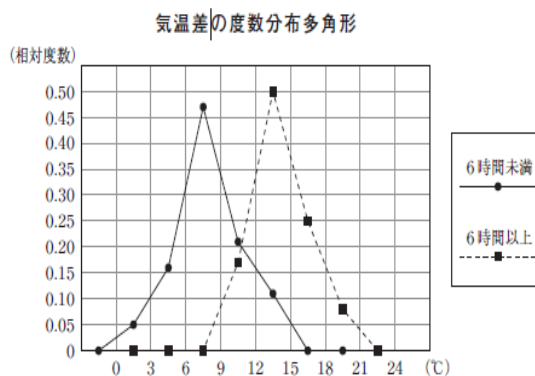
△ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる (-4% 無回答率が45.9%)

(2) 桃花さんは、14ページの気温差のヒストグラムを見て、6℃以上9℃未満の階級と12℃以上15℃未満の階級の度数が多く、山が2つあるように見えることが気になりました。13ページの調べたことの表を見直したところ、日照時間が長い日は、気温差が大きい傾向にあるのではないかと考えました。そこで、日照時間が6時間未満の日と6時間以上の日で分けてまとめた気温差について、それぞれの階級の相対度数を求め、度数分布表に表しました。

気温差(℃)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.16	0	0.00
6 ~ 9	9	0.47	0	0.00
9 ~ 12	4	0.21	2	0.17
12 ~ 15	2	0.11	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

上の気温差の度数分布表のように、2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いるのは、次のページのような考えが使われているからです。

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

## 学校では

- 式の意味を読み取ったり、資料から傾向をとらえたりしたことを、数学的に説明する力に課題が見られます。授業の中で「答えをどのように求めたのか」「なぜそのように考えたのか」を問いかけることで、答えを求めるために立てた式がどのような意味を表しているのか等を考える時間や、自分の考えを説明する時間を一層大切にして、数学的に思考する力や説明する力を高めていきます。

## 家庭では

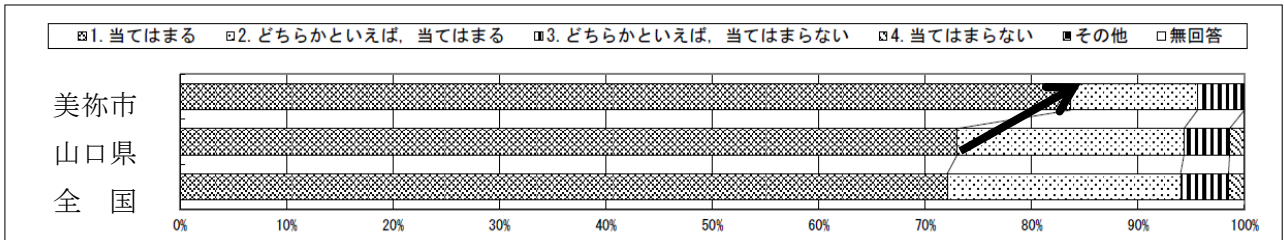
- カレンダーの数字の中にある規則性や料理のレシピにある比率等、生活の中には、数学の学びにつながる事柄がたくさんあります。またテレビや新聞のニュースの中にも「関数」や「割合」につながる話題がいくつもみられます。学習と実際の生活につながりを感じることで、学ぶ意欲が一層高まります。家庭でも、日常生活の中にある数学と一緒に探してみましよう。



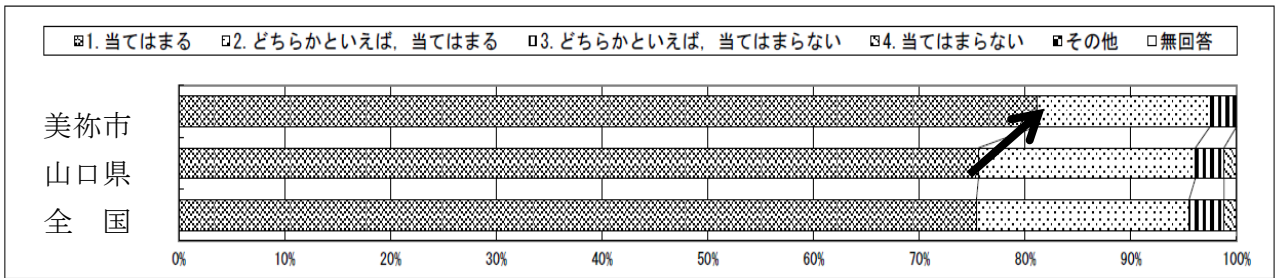
(2) 児童生徒質問紙調査の結果 (( ) は県平均との差)

望ましい状況

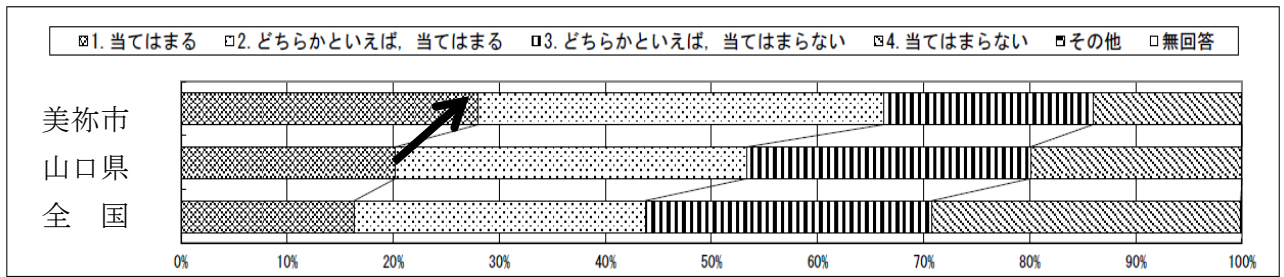
◎「友達と協力するのは楽しい」(小+10.6%)



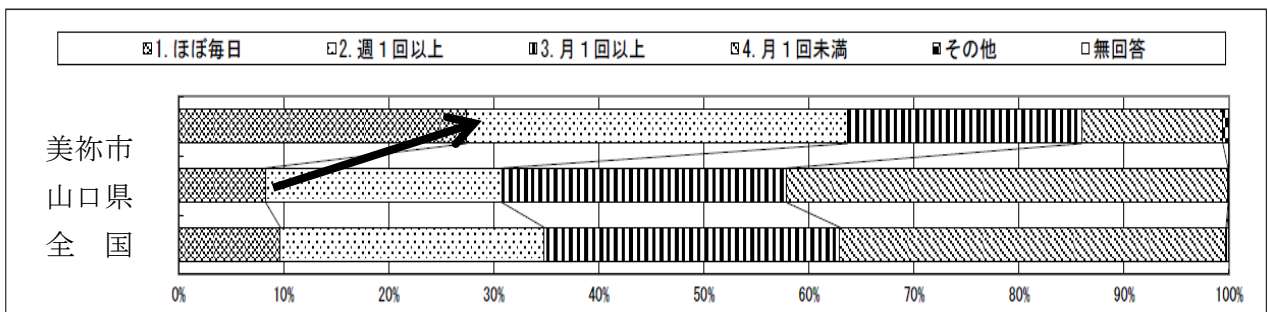
◎「人の役に立ちたい」(小+9.8%)



◎「今住んでいる地域の行事に参加している」(中+7.8%)

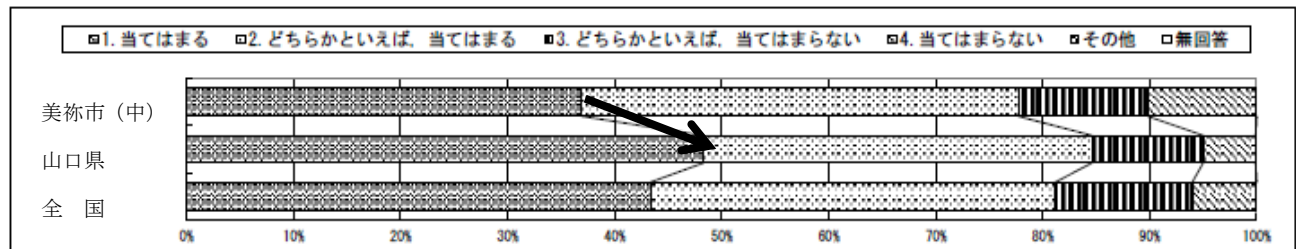
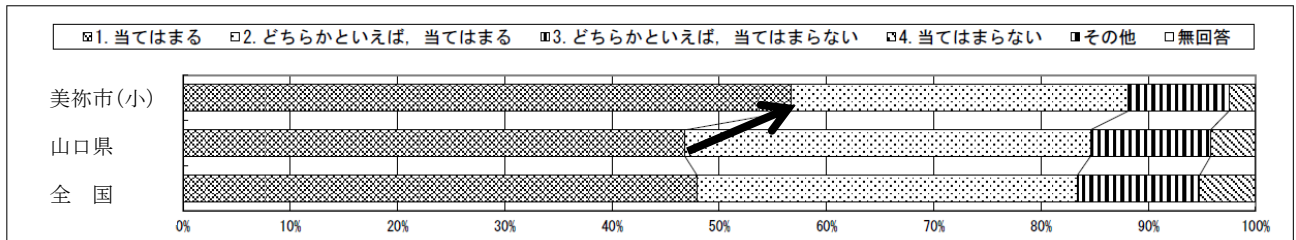


◎「学校でICT機器を使ってほかの生徒と意見交換をしたり調べたりする」(中+19.1%)

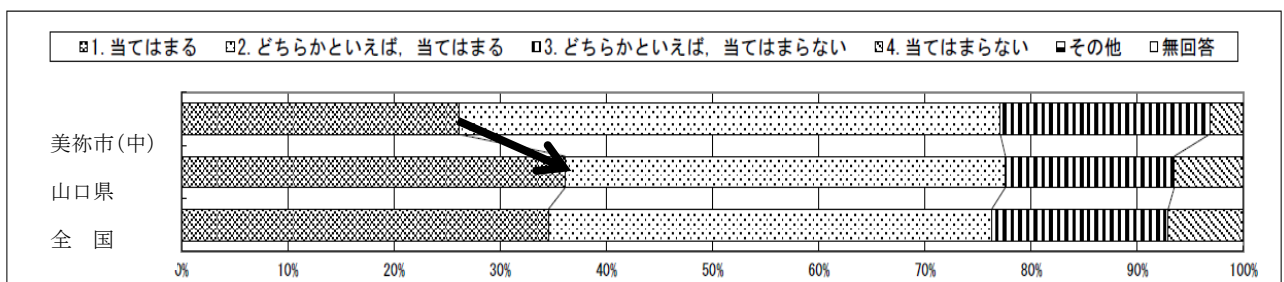
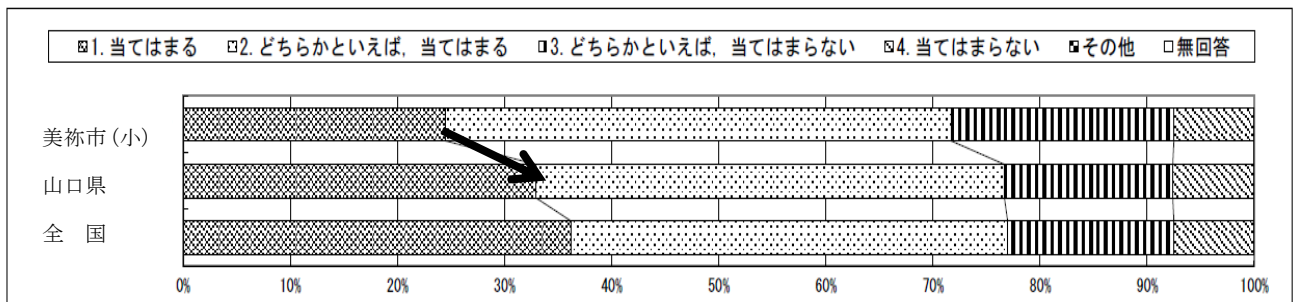


## 課題と見られる状況

△「学校に行くのは楽しいと思いますか」(小+9.8% 中-11.4%)



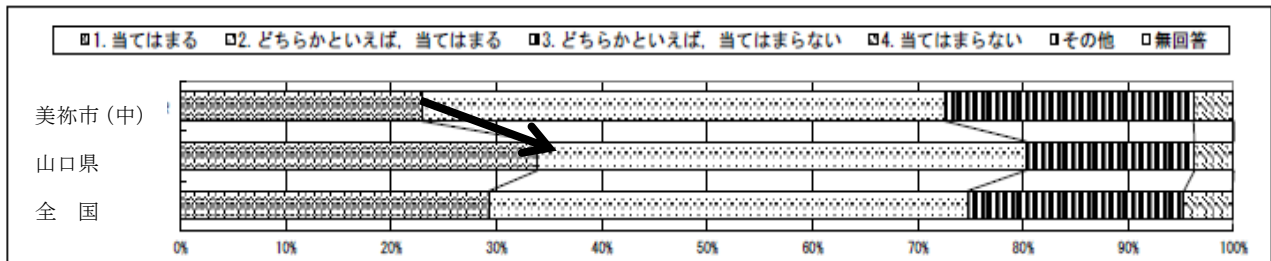
△「自分によいところがある」(小-8.4% 中-10%)





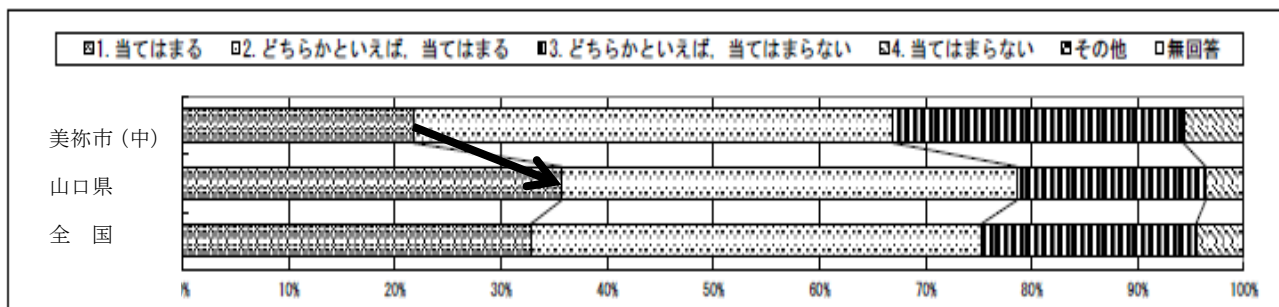
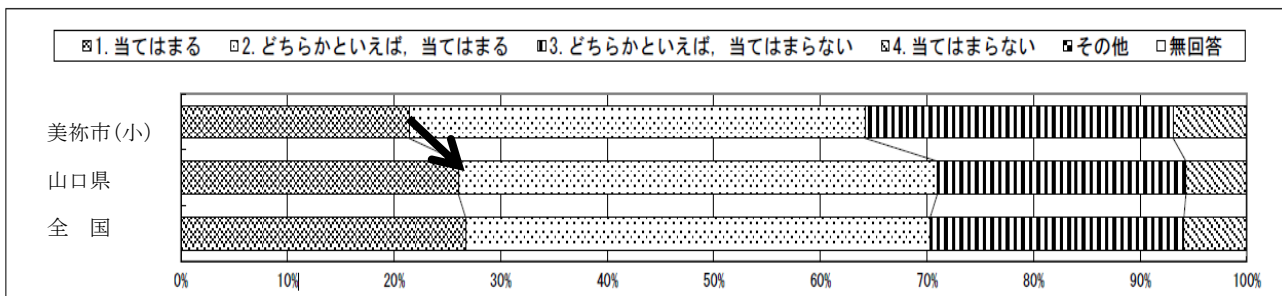
△「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

(小+0.2% 中-10.0%)

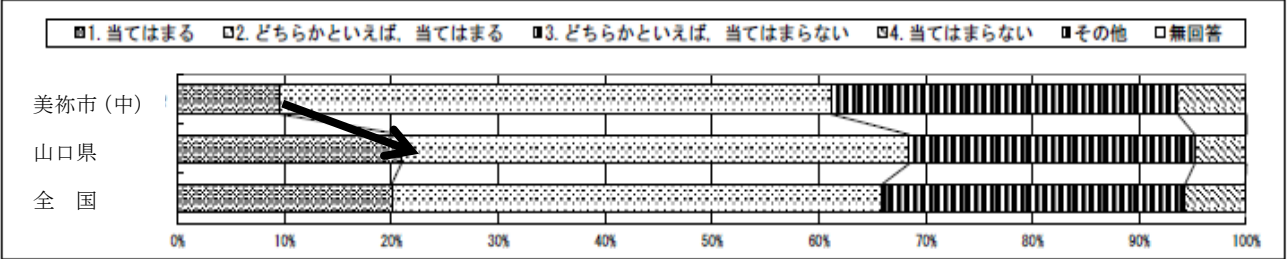
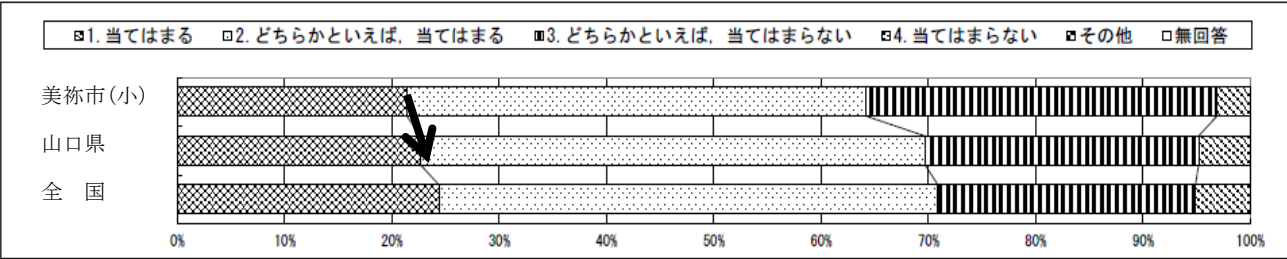


△「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」

(小-4.6% 中-14.0%)

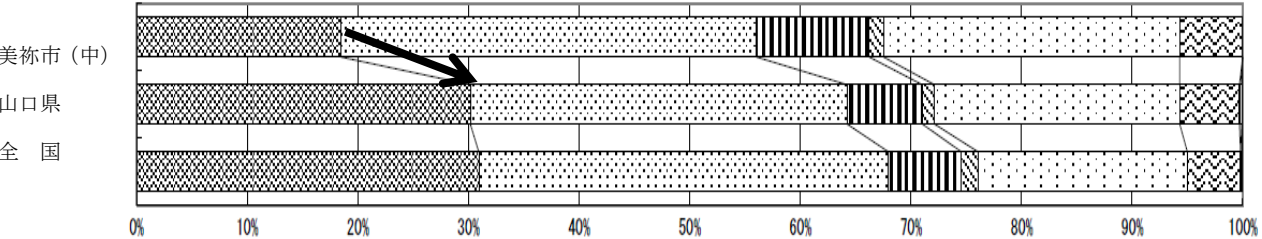
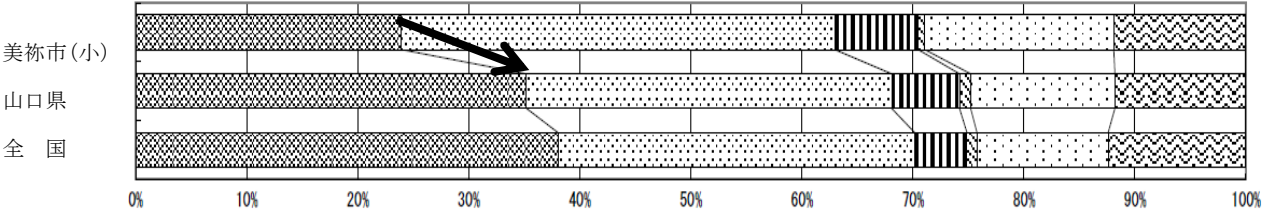


△「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」(小-1.3% 中-11.3%)



△「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」(小-11.3% 中-11.7%)

- 01. きちんと守っている
- 02. だいたい守っている
- 03. あまり守っていない
- 04. 守っていない
- 05. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、約束はない
- 06. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない
- 07. その他
- 08. 無回答



○ 楽しく、学ぶ意欲が高まる授業づくり

小学校において肯定的な回答が多かった「学校が楽しい」という気持ちが中学校になると低くなっています。学校生活の大部分は授業の時間であることから、楽しく充実感を感じる授業になるように授業改善を進めます。

具体的には、提示する学習課題を工夫し、子供たち同士の対話を大切にしながら「自分たちの力で解けた」「分かった」と思える授業づくりを進め、自ら学習に取り組む楽しさを感じられるようにします。また、授業以外の学校生活の場とも関連させることによって、各教科で学んだ知識や考え方が日々の生活でも活用できるという学びのよさを実感できるようにします。

○ 自分への肯定的な気づきを促す他者と関わる学習の推進

多くの子供たちがもっている「人の役に立ちたい」という気持ちを活かして、自己肯定感を高めていくために、生活科や総合的な学習の時間等に、様々な人と関わり合いながら活動し、地域に貢献できる学習を行います。

学習の過程では、自分たちの思っていることや感じていること、考えていること等をもとに話し合ったり、お互いの意見をもとに新しいアイデアを生み出して実行したりします。このような学習を通して、多くの人と関わり、認めていただくことで自己肯定感を高めていきます。

また、自分たちで考えたアイデアをもとに企画し、試行錯誤しながら何かを成し遂げるような活動にも取り組ませます。自分たちが決めた目標に向かって、失敗や成功を繰り返しながら活動に取り組み、達成感を味わうことで、自分に自信をもつことができ、自己肯定感を高めることにもつながります。

○ 関わり合う力を高めるための日常的なICTの活用

これからの時代に必要なICTリテラシー等が身に付くよう、授業だけでなく様々な活動において、日常的にICTの活用を進めていきます。また、ICTの適切な使い方や情報モラル等の指導も充実させていきます。

さらに、タブレット端末から子供たちそれぞれが自分の考えや作品等を送信してみんなで情報を共有したり、それを元に話し合っ自分の考えを練り直したり、別の学校とオンラインでつないだ遠隔授業をしたりする等、日常的に、そして効果的にICTを活用しながら、子供たち同士が関わり合い学び合える様々な授業や活動を行っていきます。

## 家庭では

- 自己肯定感を高める声掛け  
自分のよさを知り自信を深めるために、家庭でも子供たちの姿によいところが見られたときには、温かな声掛けをお願いします。子供が、自分の思っていることや感じていることを話そうとしているときには、しっかりと聞いてあげてください。そうすることで子供たちの自己肯定感がさらに高まります。
- 家庭での適切なICTの活用  
適切にICTを活用する態度を養うために、使用目的や時間、場所等、様々なメディアについて、ご家庭での約束を再度確認してください。また、学校から持ち帰ったタブレット端末について、使用の様子をみていただき、「学習のために使用する」ことができるようにご協力をお願いします。

## 教育委員会では

- 「学校が楽しい」と思える授業づくりについての研修  
授業改善を進め、日々の授業において、子供たちが「わかった！おもしろい！と思える授業」や「ともに考え新たな発見が生まれる授業」が実践できるように、教育委員会と先生方とが一緒になって研修を行います。
- 自己肯定感が高まる地域連携  
市教育委員会として、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした家庭や地域と連携した取組を、9年間の連続的で系統的な小中一貫教育を実践していく中で推進し、地域ぐるみで子供たちがよさを発揮できる場を増やしていきます。
- 挑戦する力を育むための美祢市公設塾 **mineto**  
令和3年度9月より美祢市公設塾 **mineto** を開設しました。**mineto** は、「好奇心を持ち挑戦し続ける子供」を育むことを目的とした、中学生対象の学びの場です。地域の方々をはじめ、多くの人とかかわり合うここでの学びを通して、一人ひとりが学習意欲を高めていくとともに、子供たちの好奇心や挑戦する心を引き出し、「自ら考え未来を生き抜く力」を身に付けられるよう支援していきます。**mineto** で学んだ子供が、その学びを各学校での活動に活かし、広めてくれることを期待しています。

これからも、美祢市の未来を担う子供たちが、よりよい教育環境の中でより充実した学びができるよう、学校・家庭・地域が一緒になった取組を推進していきます。